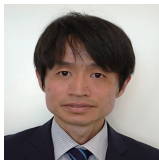


## 高校生の「学ぶ」はどう変わる？

Part.2

# 生徒主体でアクティブに学び、「好き」を育み「得意」を伸ばす

2022年度から実施されている学習指導要領の下、高校の教育は大きく変わりつつあります。学びのあり方や授業の進め方、そして科目構成や必修科目も、保護者世代の高校時代とは異なります。保護者が気になるポイントについて解説していただきます。



文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)

橋田 裕さん

はしだ・ひろし ● 2000年に文部省(当時)に入省。教育委員会、国立大学法人等の担当を経て、2009年から秋田県教育委員会にて義務教育課長等として勤務。2012年から文部科学省にて教育課程、大学入試等の担当後、東京オリンピック・パラリンピック、教育再生実行会議、幼児教育等の担当を経て、2024年8月より現職。

※本記事は、取材時点(2026年1月)での情報をもとに作成しています。

### 未来社会を切り拓くための 資質・能力を育成する教育へ

お子さんが学校から持ち帰った時間割表やシラバスを見て、ご自身の高校時代との違いに驚かれたかもしれません。高校は、文部科学省が定める教育課程(カリキュラム)の基準である「学習指導要領」に基づき、教育を行っています。現行の学習指導要領は2022年度より実施されており、新しい教育課程(以下、新課程)に基づき、各都道府県や学校がそれぞれ特色ある教育を展開しています。地域や学校により取組に差はありますが、ここでは新課程の特徴(図1)について解説していきます。

これまでの高校教育では、知識や技能を身につけることが重視されてきましたが、近年、そのあり方が大きく変わってきています。新課程においても、子どもたちが未来社会を切り拓くための「資質・能力」を育成することに重きが置かれています。この資質・能力は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱(図2)からなり、身につけた知識やスキルを相互に関連づけながら活用する力や、物事を主体的に捉えて能動的に学ぶ姿勢や意欲を育むことが大事にされています。

これら3つの資質・能力を育成するための授業の進め方や学び方も、保護

### 高校の学習指導要領 (2022年度施行)の 教育内容の主な改善事項

図1

- 言語能力の確実な育成
- 理数教育の充実
- 伝統や文化に関する教育の充実
- 道徳教育の充実
- 外国語教育の充実
- 職業教育の充実
- 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実
- 情報教育の充実

者の皆さんが高校生だったころから大きく変化しています。新課程では「主体的・対話的で深い学び」(図3)を指しており、各教科・科目のカリキュラムや授業は図3に挙げたような観点から再構成されています。授業の様子も、先生の解説を聞き、黒板を写し、知識や解法を覚えて問題を解く…という一斉授業スタイルから、生徒同士が話し合い学び合うペアワークやグループワーク、発表などのシーンが多くある、より能動的なものになっています(こうした学びは「アクティブ・ラーニング」と呼ばれます)。

加えて、これらの資質・能力を学校と社会とが連携して育てることを目指しているのも特徴です。具体的には、高校生が地域住民や行政と一緒に地域の課題解決に取り組んだり、企業や大学などと協働して研究や商品開発



「探究」「情報」「公共」…  
新しい教科・科目が登場

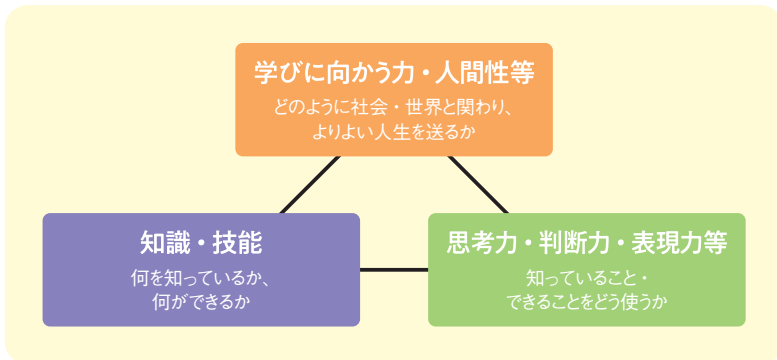
などのプロジェクトを動かしたりと、社会に開かれた教育課程へと変化していきます。保護者の皆さんには、ぜひ学校の授業参観や活動発表会などに足を運び、その変化を肌で感じていただきたいと思っています。

新課程では、一部の教科・科目で構成や必修教科目が変わりました。新しい学びを象徴するのが、必修科目である「総合的な探究の時間」です。「探究」とは、教科横断のプロジェクト型課題発見・解決型の学びのこと。自分

の興味・関心に基づき、課題(テーマ)を設定する。課題について、フィールドワークや実験などを通して情報を集める。データを整理・分析し、考察する。実際のアクションなどを通して、課題の解決策を模索する。自分の意見や考えをまとめて表現する。こうしたサイクル(図4)を繰り返して、正解のない問いについて考えを深め、自分なりの答えを見出していきます。

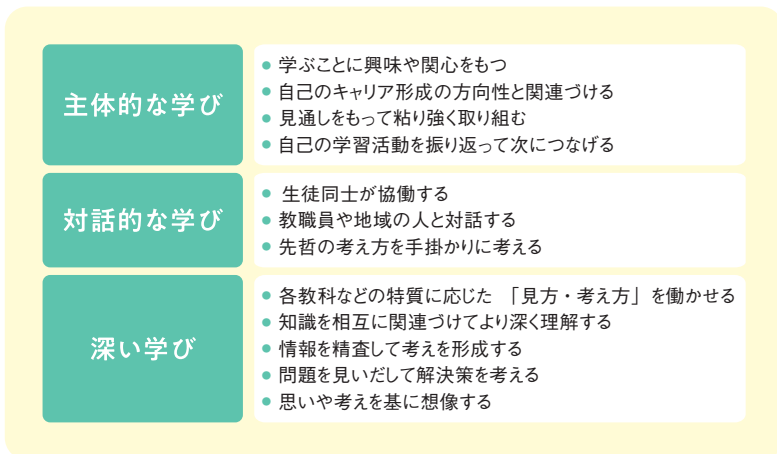
総合的な探究の時間のほか、「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「理数探究」といった探究科目(いずれも必修科目外)もあり、探究と名のつかない科目でも探究的な学びが盛り込まれ

図2 育成すべき資質・能力の3つの柱



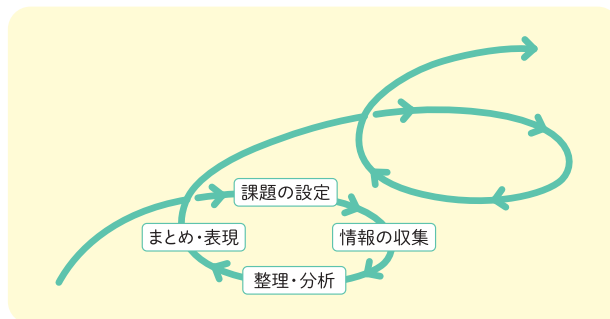
ているのが新しい教育課程の特徴です。教科書の内容をただ覚えるのではなく、あるテーマについて調べ、ディスカッションなどを通して理解を深め、まとめて発表するといった授業のあり方や、ペーパーテストの結果に限らない成績・評価は、どの科目でも新しいスタンダードとなっ

図3 主体的・対話的で深い学びの具体例



新たな教科として「情報」が加わったのも押さえておきたいポイントです。情報化社会が進み、一般常識や教養としてプログラミングやネットワーク、情報セキュリティ、データ活用などの基礎を身につけておくことが求められる

図4 探究のサイクル



**AI時代を生き抜くための本質的な学びが重要になる**

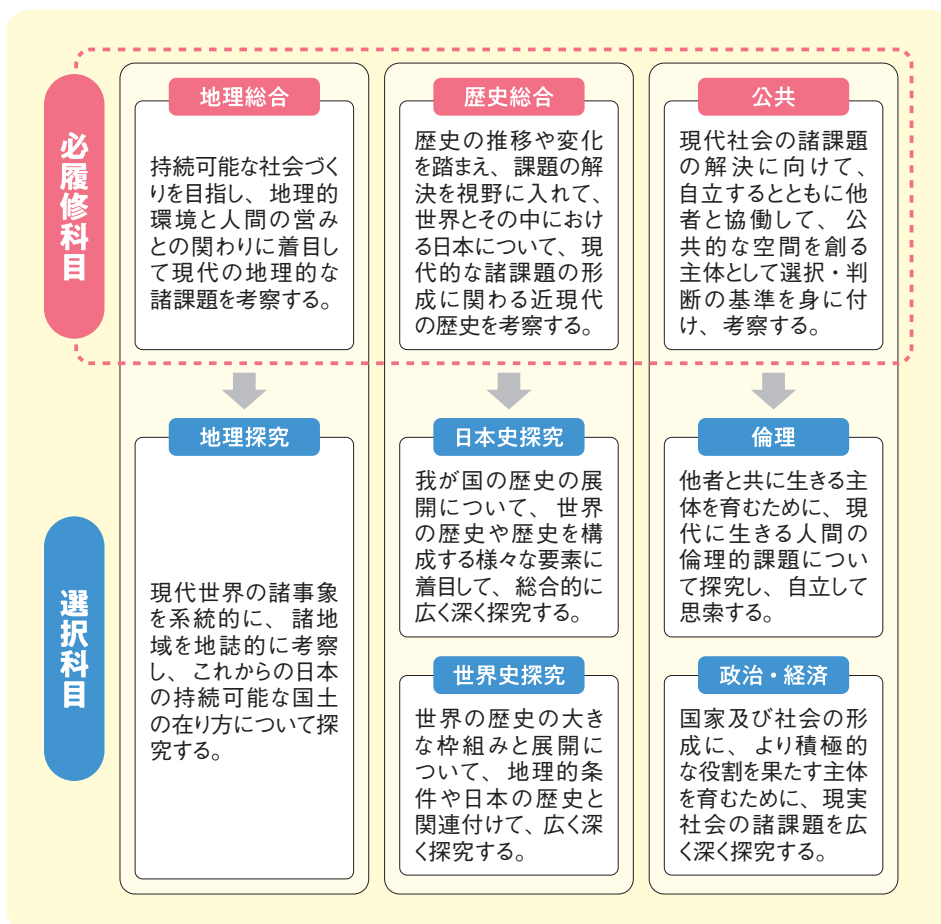
こうした高校教育の変化の背景には、社会の変化があります。AIが目覚ましい進化を遂げるなか、知識や技能の面では人間はAIに敵わなくなっています。そして、変化が激しくさまざまな情報や多様な価値観が渦巻く今の社会では、何が正しいのかを自分で判断して行動すること、新しい視点で物事を見て変革を起こすことが求められます。加えて、成人年齢が18歳に引き下げられ、社会で求められる資質・能力を高校時代に育み、未来の創り手として世に送り出すことが求められているという状況もあります。これからの時代を生き抜き、社会の担い手として活躍するために、今、主体的・対話的で深い学びや、自ら課題を見出し解決する探究的な学び、そして、新しい教科・科目が必要になっているのです。

**高校無償化とセットで公立高校への支援も拡充**

さらに、社会(地理歴史・公民)の科目構成が変わり、「地理総合」と日本・世界の近・現代史を中心に扱う「歴史総合」、さらに、社会参画について学ぶ「公共」が必修科目となっています(図5)。社会科目というと、年表通りに出来事を学んだり、年号や用語を覚えたりといった印象が強いかもしれませんが、新課程では日本と世界の関係性や政治・社会について個々のテーマに即して深掘りし、自分なりの考えを構築するような内容となっています。

高校教育におけるホットな話題の一つが、いわゆる「高校無償化」(高等学校等就学支援金の拡充)です。令和8年度より「所得制限なし」で、公立高校に通う生徒には11万8800円、私立高校に通う生徒には45万7200円を上限に就学支援金が支給されるもので、家庭の教育費負担の軽減を図るも

図5 新課程における社会科目の構成



のです。これに伴い「公立高校離れ」が懸念されており、公立高校にお子さんを通わせている保護者の方は、不安を感じているかもしれません。そうしたなか、公立高校や専門高校(商業や工業など専門分野について学ぶ高校)への支援拡充を図るため、高校無償化とあわせて実現するのが「高等

学校教育改革促進基金」の創設です。これは公立高校を所管する都道府県に設置されるもので、国が令和7年度中に提示する「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン(仮称))」に沿った緊要性の高い取組について、先行的に支援することになっています。令和7年度の補正予算として約3000



図6

### 高等学校教育改革促進基金の創設 (ネクストハイスクール構想)の主な事業内容

#### 産業イノベーション人材育成等に資する 高等学校教育改革推進事業

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

##### ＼ 類型① ＼

#### アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

技術革新のスピードが加速する時代に適した課題解決能力の獲得に向け、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学びを実現する。

##### ＼ 類型② ＼

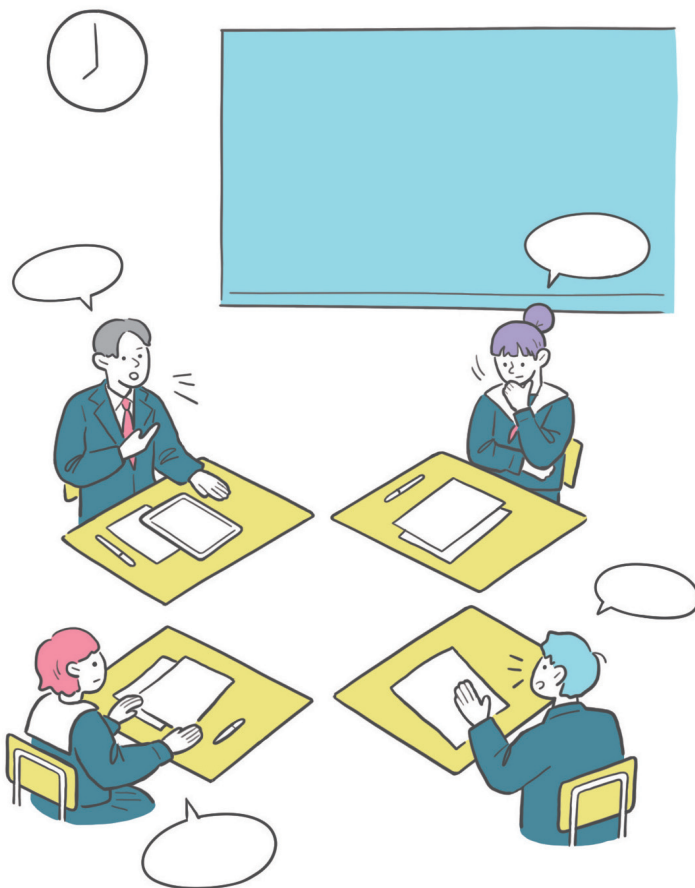
#### 理数系人材育成支援

先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、理数的素養を身に付けつつ、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた文理融合の学びを実現する。

##### ＼ 類型③ ＼

#### 多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学びの提供を実現する。



億円が計上され、高校教育改革を先導するパイロット校に対して3カ年程度で支援することが決まりました(図6)。もしかするとお子さんが通う高校や地域でも、この事業が推進されるかもしれません。

2040年、職業・学歴間の  
ミスマッチが顕在化する

2025年11月に公表した「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン(仮称))」2040年に向けた

N-EX.T(ネクスト)※1ハイスクール構想」の骨子についても、簡単に紹介しておきます。これは2040年に向けた高校改革についての構想がまとめられたものです。保護者の方にぜひ知っておいていただきたいのが、前提となる「2040年問題」です。

今の高校生が30代を迎える2040年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化などがより深刻化し、産業構造や社会システムの変化による労働力の需要・供給のギャップ、理系人材の不足といった問題が顕在化します。なかでも注目していただきたい

のが、「職業間・学歴間のミスマッチ」です(図7)。2040年の労働需要と労働供給とを比較すると、専門的・技術的職業、特にAIやロボット活用を担う人材はかなり不足することがわかります。また、生産工程や輸送・機械運転、運搬・清掃・包装などのエッセンシャルワーカーの不足も顕著です。一方、事務や販売、サービスといった職業では人材が過剰傾向にあります。加えて学歴を見ると、理系人材不足が顕著であることがわかります。

こうした課題から、社会変革を見据えた徹底した高校教育改革が不可

※1「N-EX.T(ネクスト)ハイスクール」は「New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools」の略。

欠だということ、グランドデザインの骨子では大きく3つの視点<sup>※2</sup>を設定。今後はこの視点に基づき、具体的な施策や取組を進めていく計画です。

**生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす教育へ**

そして、グランドデザインとあわせて、次期学習指導要領に向けた検討も進んでいます。「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の三位一体で、多様な子どもたちの深い学びを確かなものにすることを主旨としています。目指すのは、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の担い手」をみんなで育むこと。そのために教育現場で大事になるのが、生徒の「好き(興味・関心)」を育み、「得意」を伸ばすこと、そして、当事者意識をもって自分の意見を形成し、対話・合意できる力を育むことです。特に、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす、というのは、まさにこれからの高校教育のスローガンともなるあり方です。保護者の方々にもぜひ同じ思いで、わが子の選択や挑戦を応援してあげていただきたいと思います。

※2◎視点1：不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長。◎視点2：我が国の経済・社会の発展を支える人材育成。◎視点3：一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保。

図7 2040年問題 職業間・学歴間のミスマッチ

職業のミスマッチ(全産業)	管理的職業	専門的技術的職業	うちAI・ロボット等の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械運転	運搬・清掃・包装等	
	2040年の労働需要	124万人	1387万人	498万人	1166万人	735万人	714万人	865万人	193万人	415万人
	2040年の労働供給 ※現在のトレンドを延長した場合	175万人	1338万人	172万人	1380万人	786万人	724万人	583万人	169万人	269万人
	需要・供給のミスマッチ (2021年時点の就業者数)	+51万人 (143万人)	-49万人 (1281万人)	-326万人 (196万人)	+214万人 (1420万人)	+51万人 (834万人)	+10万人 (880万人)	-281万人 (885万人)	-24万人 (244万人)	-146万人 (516万人)

学歴のミスマッチ(全職業)	高卒	短大・高専等卒	大学卒理系	大学院卒理系	大学卒文系	大学院卒文系	
	2040年の労働需要	2112万人	1212万人	685万人	227万人	1545万人	83万人
	2040年の労働供給 ※現在のトレンドを延長した場合	2075万人	1160万人	625万人	181万人	1573万人	90万人
	需要・供給のミスマッチ (2021年時点の就業者数)	-37万人 (2735万人)	-52万人 (1240万人)	-60万人 (563万人)	-47万人 (154万人)	+28万人 (1332万人)	+7万人 (70万人)

※「2040年の産業構造・就業構造推計について」(2025年5月経済財政諮問会議 武藤経済産業大臣提出資料)をもとに作成

保護者へのメッセージ

**「好き」や「得意」を伸ばし、どんな状況でも生き抜く力を**

AIの存在感、産業構造や職業のあり方など、私たちを取り巻く社会環境がどんどんと変化するなか、大事なのは、どのような状況になっても自分の力で道を切り拓き、生き抜く力を身につけておくことだと思います。そのためには人とは違う「強み」を磨くことが有効であり、私たちが目指す子どもたち一人ひとりの「好き」や「得意」を伸ばす

高校教育というのは、まさにそれを実現するためのものです。これから進路選択を迎えるお子さんに対して、偏差値や知名度だけで選ぶのではなく、自分の好きなものや得意なことを伸ばすという視点で選ぶよう、一緒に考えていただけるとよいのではないかと思います。

これからの時代を生きていくのは子どもた

ち自身です。学校の成績や大学受験など目先のことに不安になる気持ちもよくわかりますが、世の中はこんなにも大きく変わっています。そして、これからますます変わっていきます。ぜひ、10年後、20年後と、中長期的な視点でわが子の幸せを考えてみていただきたいと思います。